

1

次の文章は昭和28年（一九五三年）に発表されたものです。これを読んで、後の問いに答えなさい。

ハンブルグの大きな深い港に、大西洋通いの巨船が、いくつもいくつも、碇泊^{ていはく}している壯観を、^{（注1）}ランチに乗って見物しているうちに、それらの大きな船の間に挟まれて、ほんとに小さい、日本の荷船^{にふね}が、黒い敏捷^{びんしよう}なマストへ日の丸の旗をかかげて、^{（注2）}もやっていた。そういう景色に接すると、あつと思うのである。

太平洋をアメリカから帰ってくる時、今日は横浜へ入港するという朝まだき、甲板^{かんぱん}へ出て見ると、水とも空とも分^{わか}ちかねる。ギョウウンのかなたに、ぬつと富士山だけがうす紫に立っているのだ。日本へ帰ったという気がする。

人は、外国を旅行することによって、しみじみと自分の国をかえりみるものであるらしい。外国語の中に暮^くしてみて、日本語というものの存在に、改めて、気づくものであるらしい。自分の皮膚の色の黄色なことを知り、自分たちが、いかに特殊な風土と慣習の中に人となったか、その限りにおいて、それらはいかに抜き難いものであるかを覚^{さと}るのである。それからは、なかなか、逃れ出^でることはできないと感^{かん}じるのである。そうすると、いくらかのA 的な愛国心が養^やわれる。しかし、愛国という感情は、もつと素朴なもののよう^{（注3）}だ。むしろB 的なもののようである。

^{（注4）}菊池寛の随筆の中に『犬』という名篇がある。二頭の犬を飼^かっていたが、いつも喧嘩^{けんか}してばかりいて、非常に仲がわるい。その二頭を連れて、予防注射のために警察へいった。どんなにあばれて困^{まど}らされることかと思^{おも}っていたら、警察の庭に、たくさん、よその、見知らぬ犬が群^ぐれている中へ入^いるや、その二頭は、互いに身体をすり寄せて、兄弟のように庇^{かば}い合^あった、という筋である。愛国心というのは、そのようなもののように思^{おも}える。愛国心は、そのようなものから、次第に意識化され、反省され、また理性化されて、C 的なものになってゆくであろう。そして、国家観念を育ててゆくものらしいが、そして、明治的な愛国の感情が生まれてくるのであるが、それはさらに進んで種々の変動を経験する。ことに、現今の時代においては、D 的な立場も生じるのである。

その間に、人間は、なんと人間なのであろうと思^{おも}わせる時期も到来するのである。それは、人が^{（注5）}五十歳に近づいた頃からである。何となく祖国が好きになってくる。ちょうど、年を取ると共に、自分の生れ故郷の食べ物に嗜好^{しこう}が返^{かえ}り、生れ故郷の方言をたくさん使うようになるのと同じであるうか。^{（注6）}小山内薫^{おさないかある}という永遠の青年にして、西洋の新しい文学や演劇や思想を常食としていた^{（注7）}高踏文化^{こうとうぶんか}の人が、トツジヨとして^{（注8）}「国姓爺合戦^{こくせいやがっせん}」の改作を思いつき、これを舞台^{のぼ}に上^あげたのは、その年頃であった。私は小山内さんに、近松復活は面白いですなと、その予告に驚いたムネを話したら、氏は、日本のものをねえ、やってみたくなつたんですよ、と、なつかしそうに答えた。その頃、小山内さんは、朝日新聞で歌舞伎の批評も書き始めていられた。

愛国心というのは、そのように、肉体的な原始的なものであって、国民に内在するものであり、次第に洗練されてゆき、^(注6) 醇化^{じゅんか}するものである。そして、国境が存し、人種が別れ、国語がある限り、ある形をもって存在するものだと思う。愛国という感情ないし観念は、だから、⁽³⁾ (1) するもので、(2) されるものではない。

しかし、愛国心を作興^{さくきよう}するという場合も生じてくる。戦争中の戦意^{せんい}昂揚^{きやうやう}のごときである。だが、愛国心というのは、自然に^eワいて出てくるもので、強制したところで製造できるものではないという観点に立てば、それは無理である。急に愛国心が起^{おこ}ったといわれても、不自然だから、そんな愛国心は信用しない。

ところが、もっと普段から、愛国心を養ってゆくということはありうる。学校教育である。ちょうど、天然自然の愛国心が、文明によって洗練されてゆくように、学校では、種々の機会に、ものの見方として、幼少な素朴な愛国心を矯正してゆけば、そのうち、ある形になって成長するであろう。方法によっては、愛国心というものの芽をつぶして、無くしてしまうこともできるかも知れない。

もっとも、私がいま考えたところによると、本能のような、愛郷心的なものであるとすると、人間が、生れるのは、必ず、一つの特定の風土の中においてであり、そこで（おそらく非常に長い間）ある特定の国語で育てられ、誰か、ある特定の人の子であるに相違ないから、望郷の心は、いつまでも残るだろうとも言える。

が、その愛国心は、何らかの形に矯正されうるのである。教育という行為は、人間をその最も望ましい生態におくための訓練なのであるから、愛国心は、その最も望ましい生態に、その良い寄与をしてくれる形のものであることが必要である。それは、どんな形であろうか。それは、結局、人間の最も望ましい生態というのは、どんなものであるかによって⁽⁴⁾ さまる。

君は、どういう生態を理想とするのだ。——そういう風に追いつめられる。まず戦争はいけないね。暴力は絶対に^{しりぞ}けなければならない。秩序と自由の樂しめる世界。……そういう中で、愛国心は、とにかく戦争に勝つことではない。国境は、いつまであるだろう。とにかく国境を越えて人を愛しうる愛国心でなくてはいいけない。

（福原麟太郎『人生十二の知恵』講談社による）

（注1）ランチ＝小型の蒸気船。はしけ。

（注2）もやっていた＝「もやう」は、船を岸や他の船にロープなどでつなぎ止めること。

（注3）小山内薫＝一八八一～一九二八年。劇作家、演出家、批評家。

（注4）高踏文化人＝「高踏」とは、世俗から距離を置き、気高い精神をもって生きること。

(注5) 「国姓爺合戦」 近松門左衛門 (一六五三―一七二四年。浄瑠璃・歌舞伎作家) の代表作の一つ。
 (注6) 醇化 純粹なものにすること。

問(一) 傍線部 a～e のカタカナにあたる漢字と同じ漢字を含むものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

a 1 b 2 c 3 d 4 e 5

a
ギョウウン

- 1 相手の顔を凝視する。
- 2 英文学に通曉する。
- 3 びっくり仰天する。
- 4 家業を継ぐ。
- 5 行間を読む。

b
ドゾク

- 1 奴隸制を廃止する。
- 2 怒号が飛び交う。
- 3 態度を改める。
- 4 精一杯努力する。
- 5 街が焦土と化する。

c
トツジヨ

- 1 序曲が始まる。
- 2 教育費を補助する。
- 3 能力が欠如する。
- 4 交差点で徐行する。
- 5 除幕式に出席する。

d
ムネ

- | | |
|---|-------------|
| 1 | 文章の主旨をまとめる。 |
| 2 | 社会に奉仕する。 |
| 3 | 史料を読み解く。 |
| 4 | 迷惑至極だ。 |
| 5 | 支障をきたす。 |

e
ワいて

- | | |
|---|-----------|
| 1 | 支払いを猶予する。 |
| 2 | 将来を憂慮する。 |
| 3 | 時間の余裕がない。 |
| 4 | 温泉が湧出する。 |
| 5 | 城の中に幽閉する。 |

問(二) 空欄 A D を補うのにふさわしい語の組合せを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 6

- | | | | | |
|---|--------|--------|--------|--------|
| 1 | A 〓 文明 | B 〓 意識 | C 〓 知性 | D 〓 本能 |
| 2 | A 〓 文明 | B 〓 本能 | C 〓 意識 | D 〓 知性 |
| 3 | A 〓 意識 | B 〓 文明 | C 〓 知性 | D 〓 本能 |
| 4 | A 〓 意識 | B 〓 本能 | C 〓 文明 | D 〓 知性 |
| 5 | A 〓 意識 | B 〓 知性 | C 〓 本能 | D 〓 文明 |

問(三) 傍線部(1)「菊池寛」の作品としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 7

- | | | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|----|---|------|---|-----|
| 1 | 山月記 | 2 | 羅生門 | 3 | 細雪 | 4 | 暗夜行路 | 5 | 父帰る |
|---|-----|---|-----|---|----|---|------|---|-----|

問(四) 傍線部(2)「五十歳」のことを何と言いますか。次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 8

- | | | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 古稀 | 2 | 米寿 | 3 | 耳順 | 4 | 知命 | 5 | 不惑 |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|

問(五) 傍線部(3)「(①) (②) (③) (④) (⑤)」を補うのにふさわしい語の組合せを、次のうち

から一つ選び、その番号をマークしなさい。

9

- | | | |
|---|------|------|
| 1 | ① 存在 | ② 製造 |
| 2 | ① 存在 | ② 洗練 |
| 3 | ① 洗練 | ② 存在 |
| 4 | ① 洗練 | ② 強制 |
| 5 | ① 洗練 | ② 製造 |

問(六) 傍線部(4)「きまる」とは何が決まるのですか。ふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

10

- | | |
|---|----------|
| 1 | 愛国心の形 |
| 2 | 教育という行為 |
| 3 | 人間 |
| 4 | 最も望ましい生態 |
| 5 | 良い寄与 |

2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「大人が直接教えたり間違いを注意したりしなくても、大人の⁽¹⁾真似をしさえすれば単語や文法を覚えられるのではないか」と考える人も多いと思います。「語順ぐらい、大人が話しているのをちよつと聞けばマスターできるでしょ」と言う人もいらつしやるかもしれません。確かに、真似をするというのは、私たちがさまざまなことを学ぶ上で重要なことです。しかし単に真似をするだけでは、自分の耳に入ってきた言葉そのものしか覚えられないでしょう。それでは、人間の真似をする⁽²⁾ オウムや九官鳥と変わりません。

ここでカギとなるのは、「法則性」に関する知識です。私たちは明らかに、自分たちが見聞きした個々の単語や文をそのまま覚えるだけではなく、そこから法則性を見いだし、初めて聞く言葉を理解するときに、それを使っています。子供がそういった法則性を身につけるには、自分の耳に入ってくる限られた数の「大人の言葉の事例」から、その背後にある「より多くの事例に当てはまる法則性」を見いだす必要があります。このように、限られた事例から法則性を導き出すことを、専門用語では「一般化」（あるいは「汎化」^{はんか}）と言います。

私たちは、普段の生活でも^a 頻繁に一般化を行っています。（イ）、ある作家の書いた本を何冊か読んで「面白い」と思ったら、「この人の書くものはどれも面白い」という法則性を導き出して、次の本が出るのを楽しみに待ったりします。どこかのレストランで食べた何品かの料理が美味しくなかったら、「あのレストランで出すものはまずい」という法則性を導き出し、次からは行かないようにしたりします。こういったものも、限られた事例からの一般化の例です。

こんなふうにと書くと、「なあんだ、一般化って、たいしたことなさそうだな」と思う方もいらつしやるかもしれません。（ロ）、一般化を適切に行い、しかも「正しい結果」に至るのはかなりたいへんなことです。

（1）

語彙^b爆発期の子供（一歳半）は、新しい単語をたった一度聞いただけでおおよそ正しく使えるようになることが知られています。この特徴は、「即時マッピング」と呼ばれています。たとえば、大人が子供に一匹の犬を指さして「あれは犬だよ」と言ったら、子供はすぐに「犬」という言葉を正しく使えるようになります。

こういったことは一見するとたいして不思議ではないように思われるかもしれませんが、実はここにも「一般化」が関わっています。（ハ）「どこに目をつけて一般化するか」という観点では、⁽³⁾ 子供はかなり難しい一般化をしています。なぜかというところ、「犬」という言葉がいったい何を指すかということについて、さまざまな可能性があるからです。

「犬」という単語が実際に表すのは、もちろん「犬という動物一般」です。しかし、大人が一匹の犬を指さして「これは犬だよ」と一度言うだけで、子供がそのことを理解するとは限りません。子供はもしかすると、「犬」はこの動物だけにつけられた名前（つまり固有名詞）だ、と思うかもしれません。（二）「ボチ」などといった名前と同じようなものだと思う可能性があります。

これ以外にも、子供が「犬」を「この動物の体の一部だ」と理解する可能性もあります。つまり犬の頭の部分や、鼻や耳、しっぽなどを「犬」だと思うかもしれません。（ホ）その犬の「体の色」や「毛の模様」のことだと思いかもしれませんが、毛がふわふわしているという「質感」のことだと理解する可能性もあります。さらに言えば、こっちを見ているという「状態」、可愛さや小ささといった「性質」など、「犬」という言葉が表しているかもしれないものの選択肢はいくらでも膨らみます。

（2）

もし子供がこういった「可能な一般化」を一つ一つ検証した上で正しいものを選ぶうとしていたら、一つの言葉を覚えるのに相当な時間がかかるはずですが。しかしながら、語彙爆発期の子供はこういった選択肢の膨大さにほとんど煩わされず、驚異的なスピードで言葉を覚えていきます。それができる理由の一つに、子供の言語習得にさまざまなバイアス、つまり「思い込み」が働いていることが挙げられます。

たとえば、子供は初めて見る物体の名前を教わったとき、教わった名前を「その物体のみを指す名前（固有名詞）」ではなく、「その物体と形が似たもの全般を指す普通名詞」だと思ひ込むことが知られています。つまり、子供が初めて見る動物について「これは犬だよ」と教わった場合、その子は「犬」という言葉がそこにいる特定の動物だけでなく、他の似たような動物すべてにも当てはまる言葉だと思ひ込むのです。このようなバイアスは「事物カテゴリーバイアス」と呼ばれ、子供が「犬」「コップ」「パン」などといった普通名詞を覚えるときに正しく働きます。

（3）

また、このときにどこに目をつけて「似ている」とするかについても、形状や材質、色などといったさまざまな選択肢が考えられますが、子供は「形の類似」に目をつけることが知られています。このバイアスは「形状類似バイアス」と呼ばれています。

また別のバイアスとして、子供が未知のものについて示された名前を、物体の一部や材質などではなく、物体の全体についての呼び名だと考えるというものがあります。これは「事物全体バイアス」と言われています。

さらに、「相互排他性バイアス」と呼ばれているバイアスもあります。これは、子供が「一つの物体には一つの呼び名しかないと思ひ込む」というものです。年少の子供は、すでに呼び名を知っているものに対して新しい呼び名を教わると、それを「同じものを表す言葉（つまり同義語）だ」とは思わず、何か別の意味を持つのだらうと考える傾向があるそうです。その「別の意味」としては、その物体の一部や性質、あるいは上位語（犬）

に対しての「動物」、「ビル」「家」に対しての「建物」など）などが候補に挙がるようです。すでにカテゴリーの呼び名を知っているものに対して新しい呼び名が提示された場合は、それを固有名詞だと思い込むという実験結果も報告されています。

(4)

こういったバイアスの存在は、子供の「目のつけどころ」があらかじめ決まっていることを示唆します。つまり子供は、限られた事例から法則性を導く際に「どこに目をつけて一般化したら良いか」で迷うことがないので、言葉を素早く学ぶことができるわけです。

しかしながら、皆さんはすでにお気づきかと思いますが、先に紹介した各種のバイアスは間違いも引き起こします。ここに、「一般化」に関するもう一つの難しさ——つまり、「一般化が間違っていたときに、どうやって間違いに気づいて、どう修正するか」という問題があります。

たとえば、事物カテゴリーバイアスは、「ポチ」「山田さん」などといった固有名詞を覚えるときには間違いを引き起こします。犬を知らない子供に一匹の犬を指さして見せ、「あれはポチよ」と教えると、子供はそれを「その特定の犬につけられた名前」と思わず、その犬に似た動物全般（つまり犬全般）の呼び方だと思ってしまう。

(5)

相互排他性バイアスも、間違いにつながる可能性があります。言語の中には「台所」と「キッチン」、「さじ」と「スプーン」、「牛乳」と「ミルク」など、数多くの同義語が存在します。「一つの物体には一つの呼び名しかないはずだ」という思い込みに従っていると、同義語を習得できないことになってしまいます。

しかし、子供は成長するにつれて、自然とこういう間違いはなくなります。言語習得の研究によれば、子供が年長になるにつれて、文脈やその他の知識を駆使して自ら「バイアス」を修正するようになります。

(川添愛『ヒトの言葉 機械の言葉——「人工知能と話す」以前の言語学』KADOKAWAによる)

問(一) 傍線部a～cの漢字と同じ読みをする漢字を含むものを、次のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

a	a	b	c
1	2	3	
a 頻繁 (1) 伴侶 (2) 潮位 (3) 糾合 (4) 賓客 (5) 破綻			
b 語彙 (1) 進捗 (2) 萎縮 (3) 報復 (4) 執着 (5) 疾駆			

- c 示唆 (1 詐欺 2 怨恨 3 慈愛 4 玩具 5 添乗)

問(二) 空欄(イ) (ホ)を補うのにふさわしい言葉を、次のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。(同じ番号を二度以上選んではいけません。)

イ	ロ	ハ	ニ	ホ
4	5	6	7	8

- 1 しかし 2 つまり 3 たとえば 4 ただし 5 しかも 6 あるいは

問(三) 傍線部(1)「真似」は二字で「まね」と訓読みする熟字訓です。これと同じ熟字訓で読むものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

9

- 1 額縁 2 田舎 3 餌食 4 惑溺 5 隙間

問(四) 傍線部(2)「オウムや九官鳥」に欠けているところで想定されている能力は何ですか。ふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

10

- 1 新しい言葉を作り出す能力
2 耳に入った言葉を覚える能力
3 真似の法則性を理解する能力
4 言葉を一般化して理解する能力
5 自分で間違いを正せる能力

問(五) 傍線部 i ~ iii の「それ」の指示する語句の組合せとしてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

11

- | | | | |
|---|-----------|--------------|----------|
| 1 | i 個々の単語や文 | ii カテゴリーの呼び名 | iii 一匹の犬 |
| 2 | i 個々の単語や文 | ii 新しい呼び名 | iii ポチ |
| 3 | i 法則性 | ii カテゴリーの呼び名 | iii 一匹の犬 |
| 4 | i 法則性 | ii 新しい呼び名 | iii 一匹の犬 |
| 5 | i 法則性 | ii 新しい呼び名 | iii ポチ |

問(六) 傍線部(3)「子供はかなり難しい一般化をしています」とありますが、この「一般化」を行うのに不可欠なものを、次のうちから一つ選び、その

番号をマークしなさい。

12

- 1 言葉の法則性
- 2 語彙の増加
- 3 バイアスの作用
- 4 固有名詞の暗記
- 5 同義語の利用

問(七) 傍線部(4)「相互排他性バイアス」とありますが、その事例としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

13

- 1 子どもは友だちを本名ではなくあだ名で呼ぶことを好む。
- 2 「犬」という言葉を覚えた子どもが、姿がよく似ているキツネも「犬」と呼ぶ。
- 3 「台所」と「キッチン」、「牛乳」と「ミルク」などの同義語では、聞き取りやすい外来語で言った方が子どもには理解しやすい。
- 4 ある人が「よし子さん」と呼ばれるのを聞いて、それがその人の名前であることを子どもが理解する。
- 5 犬も猫も「ワンワン」と呼んでいた子どもが、よく観察してそれらを区別できるようになる。

問(八) 傍線部(5)「子供が年長になるにつれて、文脈やその他の知識を駆使して自ら『バイアス』を修正する」とありますが、これに合致する具体例としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

14

- 1 入園式で、先生が「田中さん」と声をかけると、息子ともう一人の子どもが返事をしたので、息子は「田中」という名の子どもが他にいることを知った。
- 2 絵本でしかゾウを見たことがなかった息子は、動物園で実物のゾウを見てやっと「ゾウ」という言葉の意味を理解し納得したようだ。
- 3 ウサギを飼いたいと言う娘をペットショップに連れて行ったところ、はじめてその名前を聞いたハムスターの方が気に入って、結局それを買った。

- 4 「ちゃんとごはんを食べましたか」と尋ねられた息子が、「いいえ、パンを食べました」と答えて、「ごはん」と「パン」を区別した。
- 5 信号やリンゴについて「赤」という言葉が用いられているのを聞いて、娘はそれが形ではなく色を示す言葉だと理解したようだ。

問(九)

本文から次の段落が脱落しています。どこに戻すのがふさわしいですか。後群のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

15

つまり、「大人がこの（目の前の）生き物を指さして、『これは犬だよ』と言った」という限られた手がかりから、『犬』という言葉は、この生き物に形が似た生き物全般を表す」という法則性を導くには、これ以外のさまざまな選択肢——『犬』という言葉は、この一匹の生き物だけを表す名前である」とか、『犬』という言葉は、この生き物の頭の部分を表す言葉である』『犬』という言葉は、この生き物の色を表す言葉である……などといった、数多くの「可能な一般化」を捨てなくてはならないわけです。

- 1 (1) 2 (2) 3 (3) 4 (4) 5 (5)

問(十)

本文の内容と合致するものを、次のうちから二つ選び、その番号をマークしなさい。（解答の順序は問いません。）

16

17

- 1 「犬」という単語を初めて聞いた子供が、それを普通名詞であると思ひこむのは、言語習得における一般化の働きに基づいている。
- 2 子供が「犬」という単語を聞いて「犬という動物一般」を意味すると理解できるのは、「相互排他性バイアス」が働いているからである。
- 3 初めて犬を見た子供に「犬だよ」というと、子供は「犬」が普通名詞であると理解し、「ポチだよ」というと固有名詞であると理解する。
- 4 「牛乳」と「ミルク」は別物だと思ひ込んでいた子供が、両者は同じ物を指すと理解し直す際にバイアスの修正がかかわっている。
- 5 子供が「犬」「コップ」「パン」などといった普通名詞を早くかつ正確に覚えるためには、それらの実物を見せてやるのが一番である。
- 6 子供が「ポチ」「山田さん」などといった固有名詞を普通名詞だと思ひ込みやすいのは、「事物全体バイアス」が働いているからである。

3

次の各問いに答えなさい。

問(一)

漢字の読みが間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

1

- 1 尻(しり)を上げる。
- 2 膝(ひざ)が笑う。
- 3 拳(こぶし)をにぎる。
- 4 脇(ひじ)があまい。
- 5 眉(まゆ)をつり上げる。

問(二)

漢字の読みが間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

2

- 1 役員の人事を刷新(さっしん)する。
- 2 予算を措置(しよち)する。
- 3 酸鼻(さんび)を極める。
- 4 弔旗(ちようき)を掲げる。
- 5 故郷を出奔(しゅっぱん)する。

問(三)

熟語の漢字が間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

3

- 1 襲名
- 2 折衝
- 3 困窮
- 4 粗品
- 5 完璧

問(四)

漢字の部首名が間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

4

- 1 補(ころもへん)
- 2 胸(つきへん)
- 3 社(しめすへん)

- 4 快（りっしんべん）
- 5 信（にんべん）

問(五) 熟語の構成が他の四つとは異なるものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

5

- 1 賛否
- 2 緩急
- 3 因果
- 4 辛苦
- 5 功罪

問(六) 「つつがない」とほぼ同じ意味を表す四字熟語を、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

6

- 1 支離滅裂
- 2 平穩無事
- 3 傍若無人
- 4 正確無比
- 5 付和雷同

問(七) 「石橋をたたいて渡る」ということわざが示す意味に最も近い形容詞を、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

7

- 1 恐れ多い
- 2 信心深い
- 3 堅苦しい
- 4 慌ただしい
- 5 用心深い

問(八) 「五節句」に含まれないものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

8

- 1 七夕
- 2 重陽
- 3 元旦
- 4 端午
- 5 上巳^{じょうし}

問(九) 傍線部の動詞の活用形が他の四つとは異なるものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 9

- 1 風が吹き、花が散る。
- 2 母が先生と話している。
- 3 友だちにメールを送った。
- 4 雨が降れば、中止します。
- 5 生徒たちが騒いでいた。

問(十) 冒頭が次のように始まる小説の作者を、後のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 10

国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。……

- | | | | | |
|---------|--------|--------|--------|--------|
| 1 三島由紀夫 | 2 島崎藤村 | 3 夏目漱石 | 4 川端康成 | 5 志賀直哉 |
|---------|--------|--------|--------|--------|

問(十一) 外来語とその訳語の組合せが間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 11

- 1 リテラシー——品位
- 2 パラドックス——逆説
- 3 オプション——選択肢
- 4 コンセンサス——合意
- 5 ロジカル——論理的

問(十二) 動詞とその敬語表現の組合せが間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 12

(動詞) (敬語)

- 1 する——召す^め
- 2 もらう——賜る^{たまわ}

5	4	3
来る	知る	行く
—	—	—
参る	存じる	伺う

設問は以上です。